

ふるさとと歴史 アラカルト

岩国と『花燃ゆ』ゆかりの人物11 高杉晋作2

(1839~1867年)

元治元(1864)年、7月19日の禁門の変で長州藩が御所へ発砲したことを理由に、江戸幕府は長州藩を朝廷に背く敵と見なし、第一次長州出兵が始まります。この危機に対し、岩国藩主吉川経幹は、薩摩藩や征長総督の元尾張藩主などと交渉し、禁門の変に参加した三家老の切腹などを条件に戦争の回避に成功しました。同時に長州藩では、棕梨藤太を中心とした保守派の政府となり、江戸幕府への恭順を進め、革新派を投獄し、奇兵隊など諸隊の解隊を進めようとした。高杉晋作は、身の危険を感じて10月に福岡へ逃れていましたが、こうした長州藩の動きを聞いて長府(下関市)へ戻り、奇兵隊などの諸隊に決起を促します。しかし、藩政府との交渉による解決を進めていた赤禰武人の反対もあり奇兵隊は動かず、賛同したのは伊藤博文の力士隊の一部と石川小五郎の遊撃隊だけでした。同年12月15日、晋作は功山寺(下関市)で決起します。これに対し、藩政

府が投獄していた革新派を処刑したことよって、当初動かなかった諸隊も晋作に合流して決起は成功し、藩政府は新たな体制となりました。

慶応元(1865)年、晋作は長州藩の今後の方針を示すため、『回復私議』という文章を書いています。その中で経幹の周旋活動について「周旋を岩国に任せたことにより、岩国は志を得て悪巧みが日に日に増長し、薩摩藩士を国内に入れ、幕府へ自分勝手に使者を送り、元尾張藩主に対してへつらう言葉を送った。甚だしいのは、恐れ多くも長州藩主の死にも言及し、周防国(県東部)と馬関(下関)を長州藩から切り離して幕府に与え、自分の子供を毛利家の後継として、徳川に仕えて幕府の一門に加わる大反逆を計画していたのは、言語道断の大胆で悪逆な行為である」と厳しく非難しています。その後、晋作は第二次長州出兵などでも活躍しますが、慶応3年4月14日、27歳で病死しました。



▲『高杉和助(晋作) ほか6名斬罪状』(部分)…戦争回避のため、長州藩では3家老に加え、数名に厳罰を下すことが計画されていた。この7名のうち晋作を除く6名(赤字の4名は家老とともに、青字の2名は晋作の決起後)は実際に斬首された。

高杉和助(晋作)

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市 人口・世帯

人口 140,323人【前月比 - 156人】 男性 66,453人 女性 73,870人

世帯 66,453世帯【前月比 - 44世帯】 ※外国人人口を含む(平成27年8月1日現在)

交通事故発生件数 7月分事故件数 48件(301件) 死者数 0人(1人) 傷者数 55人(344人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成27年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337